

社会科

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
基礎知識を習得し、様々な資料に触れ、複数の資料から様々な情報を読み取り、物事を考察する力を付ける。	社会的事象について、資料を有効に活用しながら様々な角度からとらえ、現代社会と結び付け、自分の言葉で表現できる力を付ける。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣（家庭学習）が身に付いていない。ア 資料から読み取れることを取り出したり、自分の言葉で説明したりすることが苦手である。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で問題集等の課題演習に取り組む時間を定期的に設け、学習の定着を図る。ア 授業の発問の中に、資料の読み取り課題を多く取り入れていく。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 通年 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに振り返りや問題演習の時間を設け、意識づけを図った。家庭学習には意図的な課題設定が今後も必要である。 プリントに資料をつけることで、毎回資料に触れられるようにしたが、資料の読み取り問題の正答率はまだ低い。次年度も継続していく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストやワークシートで、説明をする発問・設問の正答率に課題がある。ア 複数の資料を読み取る課題に苦手意識が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 説明を求める課題を意図的に活用しながら、主体的に取り組めるように意見交換をする機会を取り入れる。ア 単元末で資料を活用してレポートを作成する課題に取り組む。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 6月～ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で記述問題の演習を行った。他者の記述を共有することで、視野を広げることができ、記述問題に取り組める生徒が増えてきた。 単元ごとにレポート課題を行うことで、資料の読み取りの苦手意識を少し克服することができ、資料読み取り問題の正答率が上がった。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもって学習に取り組む姿勢は見られるが、1・2年次の学習内容が定着していない。ア 複数の資料を読み取り、設問に答える課題に苦手意識が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生で学習した範囲の復習問題や、都立入試の問題などに取り組む時間を定期的にとることで、定着を図る。ア 班活動やICTの活用を通して、自分の書いたものを他の生徒と共有し、視野を広げる機会を設ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 11月～ 通年 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始10分間を復習の時間として活用することで意識づけになった。次年度はさらに回数を増やしていく。 授業で記述問題の演習を行った。他者の記述を共有し、視野を広げることによって、苦手意識を少しずつ克服でき、資料読み取り問題の正答率が上がった。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化な充実に向けた一人一台端末等のICTの効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題やレポート、振り返りシートをロイロノートで作成・提出 新聞作成やレポート作成のための調べ学習 自分の意見をロイロノートで提出・共有・発表【重点：個別・協働】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> keynote（プレゼンテーションアプリ）を活用し、授業に見通しをもたせる。 単元を貫くテーマを設定し、単元の最後に振り返りやレポート作成、発表に取り組ませる。
--	--

